

あとがき

本誌は、優れた症例報告が多く掲載されていることで広く認知されています。一方、英文誌の多くは、いわゆる original paper を主として扱っているものが多く、case report は雑誌の後のほうに掲載されるのが一般的です。むろん、このような欧文誌の編集方法に異論を唱えるものではありませんが、症例報告を重視した雑誌があっても不思議はないと思います。良い症例報告は日常臨床に役立つ、あるいは手助けになるばかりでなく、将来進むべき道筋や研究に関するアイデアや指針を与えてくれます。フランスの神経学は伝統的に臨床の場を大切にしており、多くの優れた研究や新しい知見が症例報告から得られていることは歴史が示しているところです。

本邦では、優れた症例報告が本誌をはじめ、他の耳鼻咽喉科関係雑誌に掲載されています。しかし、これらは残念ながら日本の主として耳鼻咽喉科医のみが知るところであり、諸外国では全く認知されていません。もちろん、すべての症例報告を英文雑誌に発表する必要はありませんが、世界に発信してよい内容の症例報告も少なくないと思います。そこで、これらの優れた症例報告を、本誌の英語版というべき雑誌を新たに刊行し、世界に発信したらどうかというアイデアがあります。わざわざ、そのような面倒なことはせずに、既存の英文誌、例えば、Acta Oto-laryngologica や Laryngoscope,あるいは Annals of Otology Rhinology & Laryngology などに投稿すればよいのではないかという意見もあると思います。しかし、しばしばこれらの雑誌では、当然のことかも知れませんが、その受領(掲載)は公平とは言いながら、自国あるいは関係国からの投稿論文には甘く、外国からの投稿には辛いのが一般的です。特に、英語を母国語としない日本人にはなかなかハードルが高いのが現状です。また、同時にその投稿先を外国雑誌にのみ頼っているのは、文明国、科学大国の日本としては寂しい限りです。

幸い、本誌の発行元である(株)医学書院の代表者もこの件に関して理解を示しています。すなわち、耳喉頭頸の英文誌(耳喉頭頸の英語訳雑誌ではありません)が近い将来発刊される可能性が出てきていることは、編集子にとってもきわめてうれしいところです。もちろん、この英文誌が刊行されるには、越えなくてはならないハードルが多くあります。そのような困難があっても、ぜひ実現したいものです。

(八木聰明)

編集顧問

大和田健次郎

佐々木 好 久

曾 田 豊 二

坂 井 真

小 田 恂

編集委員

八 木 聰 明

竹 中 洋

吉 原 俊 雄

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (第 79 巻 第 4 号)

発 行 株式会社 医学書院

2007 年 4 月 20 日発行 (毎月 1 回 20 日発行)

代 表 者 金原 優

定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)

〔 2007 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 39,950 円
増刊号を含む 13 冊, 税込・送料小社負担 〕

〒 113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5710 (担当 西塚・中田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802 (編集室)

E-mail : jikotokei@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693 番

印 刷 所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・医学書院ホームページ(インターネット)は

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/> です。

・「耳鼻咽喉科・頭頸部外科」のページは

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jikotokei/> です。

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ JICIS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >

・ 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。